

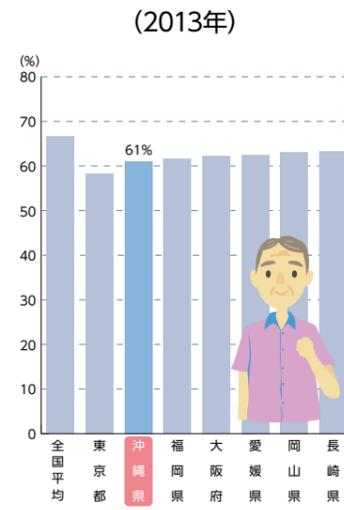
● 65歳雇用の企業割合

61%

少子高齢化の進展により、60歳代のシニア世代の経験や能力がますます必要となってくる。一方で60歳未満の現役世代も老後資金の不安等から、今後より長く勤めることができる企業を必要としている。

厚生労働省「高齢者の雇用状況」によると、沖縄県において、希望すれば全員が少なくとも65歳まで働ける企業の割合は61%。集計結果の公表が始まった2010年から比べて18.2ポイント上昇したものの、東京都に次ぎ全国では2番目に低い結果となっている。

2012年に施行された改正高齢者雇用安定法では、企業に対し65歳までの雇用確保を段階的に行うよう義務付けている。対応企業は今後も増える予定だ。シニアの「生涯現役」を実現し、若手・中堅の成長する機会も与える職場を作るためにはまだまだ課題も多い。早急な対応を期待したいものだ。  
(海邦総研・比嘉明彦)



● 牛乳の平均価格

242円

(2013年/店頭・紙容器)

他県で1000mlで販売されている紙パック牛乳は、沖縄では946ml (1/4ガロン) で販売されている。これは、本土復帰前から米国メーカーが主に基地内向けに販売していた名残といわれている。

総務省「小売物価統計調査」によると、牛乳の平均価格は、那覇市で242円。全国の県庁所在地の中で最も高い。飼料の多くが県外購入であることや、暑熱対策が高価格の要因とみられる。高価格が影響しているのだろうか、那覇市の一世帯あたりの牛乳年間消費量は全国の県庁所在地の中で最下位となっている。平成に入り、県内の乳用牛は、前述のような高コスト要因や後継者不足などから農家戸数も飼養頭数も減少してきたが、飼養頭数はここ数年微増傾向にある。生乳生産量も下げ止まった。私達の健康のためにも、県産の牛乳を盛り立てるためにも飲んで応援したい。  
(海邦総研・堀家盛司)

順位	県庁所在地	価格(円)
1	那覇市	242
2	新潟市	238
3	金沢市	227
4	松山市	219
5	鹿児島市	213
6	東京都区部	212
7	大阪市	211
7	鳥取市	211
7	高知市	211

● とうがんの収穫量

2,241トン

沖縄県の農産物といえば、サトウキビやゴーヤー、マンゴーなどを思い浮かべる方が多いだろう。しかし、収穫量で全国上位に入る農産物は他にもある。そのひとつが、とうがんだ。

農林水産省「第88次農林水産省統計表」によると、沖縄県のとうがん収穫量は2,241トンで全国第2位。ちなみに、県内の生産量内訳をみると、全体の24%が宮古島市、18%が伊江村となっている。

とうがんといえば煮物やスープの具材にするのが一般的だが、最近ではスイーツも含めた、さまざまなレシピが紹介されている。その用途はとても幅広い。また、とうがんには、体の熱を冷ます効果があり、夏バテやむくみ改善に良いといわれている。

そろそろやって来る暑い季節。夏バテがづらい時には、とうがん料理で暑さを乗り越えてみてはいかがだろうか。  
(海邦総研・宮平杏奈)

順位	都道府県	収穫量(トン)
1位	愛知県	2,999
2位	沖縄県	2,241
3位	岡山県	1,509
4位	神奈川県	1,178
5位	鹿児島県	562
6位	茨城県	436
7位	静岡県	342
8位	長崎県	297
	全国	10,478

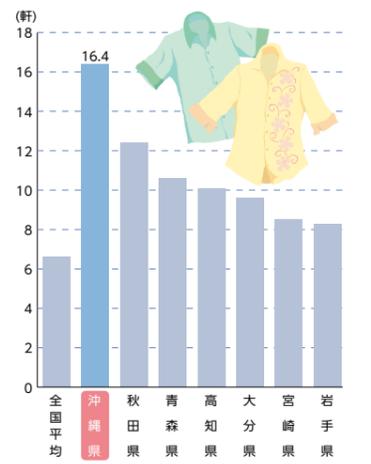
● 衣服裁縫修理業事業所数

11.7軒

(2009年・人口10万人当たり)

衣服裁縫修理業とは、洋服のお直し屋さんのこと。最近では、節約志向の高まり、環境意識の高まりから、女性を中心に幅広い年齢に人気があるようだ。

総務省「経済センサス」によると、県内の衣服裁縫修理業の事業所は、226事業所。これを人口10万人当りに換算すると16.4軒で、これは全国トップの水準となっている。お直しは大きく分けて3つある。裾上げなどのサイズを変更する「リフォーム」。穴や傷を修理する「リペア」。そして、特に需要が高まっているのが、流行りのデザインに変える「リメイク」だ。洋服のお直しは、女性が結婚した後も長く続けられる業種として沖縄にも根付いてきた。近年、県内の事業所は減少傾向にあるようだが、実は、節約志向が高まるなかで成長が期待されている産業の一つなのだ。  
(海邦総研・新里治史)

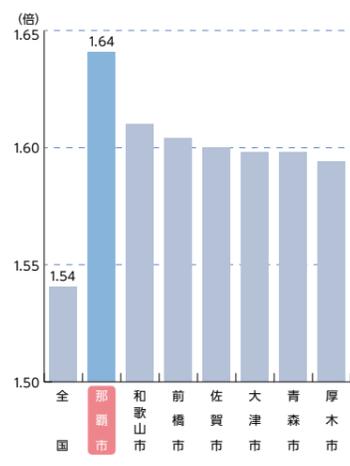


● ガソリン価格の上昇率

1.64倍

(2014年5月/2004年5月)

消費税増税など、物価上昇が家計に厳しい昨今、特に気になるのが最近のガソリン価格。総務省「小売物価統計調査」を基に、この10年間のガソリン価格の上昇率を算出すると那覇市が最も高くなっている。10年前には1リットル101円だったが、現在では166円。価格は1.64倍まで上昇している。値上がりは全国的な傾向であるにせよ、なぜ那覇市の値上がり率が最も高いのか。沖縄で販売されているガソリンは、原油を輸入し精製したものと、本土の精製されたガソリンを輸送して来るものがあり、どちらも輸送費が高い。これに輸送燃料価格の上昇が相まって、輸送費が更にかさみ、現在の価格まで上昇したことなどが大きいとみられる。今後も不透明なガソリン価格の動向は車社会の沖縄にとって切実な問題。低燃費エコカーの存在感がますます強まっていくだろう。  
(海邦総研・瀬川孫秀)



「おきなわデータ算歩 庶民のけーざい100」伊波 貢 沖縄タイムス社

「データ算歩」は県内でよく話題になる事柄を具体的に数字で裏付けて紹介しようと試みたもので、経済・数字の世界をまさに算(散)歩感覚で楽しみましょうという内容です。

「食生活」「生活・消費」「産業」「住環境」など八項目に分類。漫画やグラフを使い、見開き2ページで1項目を説明しています。アイスクリームやビールの購入額が全国一低いなど意外と思える数字も紹介。読みたい項目から読めるよう工夫しています。

沖縄県内各書店やインターネットでもご購入いただけます。沖縄けーざいを易しく知りたい、興味のある、という方に特にお勧め！

<http://www.kaiho-ri.jp>